

2019. 10. 7

畑 啓之

稲美町野谷の墓所に「畑氏碑」「畠氏碑」と名のついた江戸時代の墓石をみつけた

私の生まれ故郷である兵庫県加古川市上荘町国包には、「畑」「秦」「畠」姓が非常に多い。

これは国包（くにかね）だけの現象であるのかもしれないと思っていたが、稲美町野谷の墓所に「畑」と「畠」の墓石が仲良く並んでいるのを見つけた（次ページ）。

墓石の台座には畑氏碑、畠氏碑と記されている。この台座は最初から墓石に付随していたものだろうか。それとともに、後世に加えられたものだろうか。畑氏碑ではその墓石との色調や石の様子が似ており、最初からあったものと考えてもいいようにも思う。

だが、今日の墓石では、たとえば「畑家之墓」のように言うが、これらの墓石では「氏碑」である。それも畑碑と畠碑ともに同じ大きさ、同じ字体で同じ大きさの台座である。野谷村においては畑家、畠家ともに子孫が途絶え、後世の村人がこの似た名前の墓石を一か所に集めるとともに、この台座を新たに加えたものとも考えたほうが理解しやすい。彼岸にも花が供えられた様子はないので、今は無縁仏となっているようである。

大樹の周りに今や無縁仏となった江戸時代の墓石が多く集められているが、「氏碑」とあるものはない。野谷村において何らかの役割を果たしていた人物の墓なのだろうか。戒名も居士、大姉となっている。「畠氏碑」には墓碑文はないが、「畑氏碑」には墓碑文が記されている。これによると、諱（いみな、現生での名前）は記されていないので不明であるが、どこから嫁をめとって男子を授かり、その名前が何で、と前半部分にはファミリーヒストリーが記されている。後半部分は読み取れていない。

野谷は、1693年に新田開発で開かれた村で、江戸時代は野村新村と呼ばれていた。畑氏碑の主は同村で明和3年（1766年）生まれ、歿年は天保2年（1832年）である。

主の生まれる少し前し前の寛延2年（1749年）に姫路藩寛延の大一揆という大きな事件が起こった。この一揆の首謀者は野谷新村の伊左衛門であった。このため、野谷新村では前庄屋を含む多くのものが処罰を受けた。その数、重罪6人、軽罪55人であった。その結果、宝暦元年（1751年）には村の戸数はわずかに12戸となってしまった。写真の墓所の中に、伊左衛門の墓石（戒名、慈翁道清信士）もあるとされている。畑氏碑の主はこのような苦難を背負った村に誕生した。

